



ご挨拶



病院長 政二文明

昨年末、中国に端を発した新型コロナウイルス感染症は全世界を覆い尽くし、人類の生活、経済を一変させ、歴史を変えようとする勢いです。首都圏を中心とした患者多発地域では医療重要な急拡大に対応困難となりつつあり、社会不安の一要因となっています。今のところ、上越・妙高地域では発生源不明な多発流行は見られず、医療体制にも余裕がありますので皆さんご安心ください。

けいなん総合病院は、感染症指定医療機関ではなく、新型コロナウイルス肺炎の患者さんを治療する予定はありませんが、患者さんの発見、診断、早期対応を通してコロナ撲滅に尽力いたしますのでご協力をお願いいたします。

この際、とても残念なことは、医療スタッフや家族への心ない発言、しうちがみられていることです。我々医療人だけであればまだしも、子供なども巻き込まれていることはなんともやりきれないことです。

とはいえ専門的知識のない一般の方が、不安を抑えることができず、苛立ちを攻撃に転嫁することは日常医療でもまま見られます。ましてや新型コロナウイルスのような正体の知れない伝染病に脅かされ続ければあってもおかしくないことかもしれません。

私たち医療人は、専門知識を持つ者として、この疫病が克服されるまで思いやりを忘れず、私利私欲を捨て病める人に尽くしたいと思っております。

さて、コロナにまぎれてしまいましたが、本年春より、透析施設が拡大され、スタッフ一同の頑張りにより運用は順調に進んでおります。この拡大により、妙高地域の透析患者さんが遠くの病院に通院せざるを得ない状態は今後も解決されることでしょう。

また、リハビリテーション施設も移転、拡張、整備されました。外来リハビリなどを通して、フレイルの改善、要介護者の減少、ひいては健康寿命の延伸を目標としております。皆様のご利用をお待ちしています。

本年も地域への貢献を忘れず運営してまいりますので、けいなん総合病院をご支援くださいますようお願い申し上げます。



新看護部長就任のご挨拶



佐藤明美

この度、けいなん総合病院看護部長兼看護介護部長を務めさせていただきます佐藤明美と申します。

3年前、病院の変革期に上越総合病院より転勤してまいりました。3年間は、副看護部長兼外来師長として自分自身には何ができるか、変わっていく病院の体制に対し、いかに看護部職員の志気を高めていくかを考え、今求められている病院として看護部はどう動かなければいけないのか、限られたスタッフで患者様のために最大限できることは何かを問う3年間でした。

病床の縮小、3階空きスペースを利用したリハビリセンター開設、妙高市病児病後児保育事業への協力、透析室増床等様々な取り組みを行い、令和2年度がスタートしました。

地域に密着した病院として、医療・保健・福祉・介護サービスを提供し、優しく思いやりのある看護・介護を実践することで患者様や地域の皆様から信頼され、選ばれる病院を目指して職員一同頑張つてまいりますので、今まで同様のご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

新副看護部長就任のご挨拶



廣田光恵

4月に糸魚川総合病院より着任いたしました。妙高地域や生活する方々のことを早く知りたいと思い悪戦苦闘の日々です。連携医療機関や福祉施設の皆様と協働しながら、地域の医療を考えていきたいと思っております。

お力添えいただきますよう、よろしくお願いいたします。

▼転入職員紹介 (一部紹介)

医事課長 吉原 圭子

2020年4月からけいなん総合病院にお世話になっております吉原と申します。

生まれは上越市(直江津)です。前任地は柏崎総合医療センターです。勤務年数は長いのですが、けいなん総合病院には今まで赴任したことがなく、まったく初めての病院になります。

毎朝色々な表情の山を見て通勤することになり、とても新鮮な毎日です。

けいなん総合病院はこの地域にとってとても大切な病院であり、私も少しでもお役に立てるように努力して参ります。

今後ともご指導・ご教示のほどよろしくお願い申し上げます。



主任臨床工学技士 矢嶋 晃仁

4月1日より上越総合病院より転勤いたしました、臨床工学技士の矢嶋と申します。出身は柏崎市で、毎日妙高連山を眺めながらけいなん総合病院に通っています。若いころはスキー場の行き帰りに通った所ですが、途中の『あさひや』はとても懐かしかったです。

妙高市といえば11年前の新潟国体で新井中にてハンドボールのオフィシャルに来たのを思い出します。最近では昨年、子供の中学校サッカー大会で数日運動公園に通いました。

さて臨床工学技士の仕事は？と言いますとなじみがない、聞いたことが無い方もいらっしゃるかと思いますが、最近少しメディアに取り上げられています。詳しくは次のページのStaffEssayをご覧ください。同僚がくわしく載せています。

当院臨床工学技士は三名と少ないですが、目の前のことを一生懸命やり、院内の医師、看護師、など他職種との連携はもちろん、地域に方々ともかかわりを持ち、親しみを持ってもらえるような技士として頑張っていきたいと思っております。今後ともよろしくお願い致します。



▼紹介時の予約について

当院へご紹介いただく際、受診前に予約することができます。待ち時間短縮や、医師が紹介状を受診前に確認することもできます。

ご希望の場合は地域連携センターへご連絡をお願いいたします。

▼認知症ケアへのとりくみ

当院は高齢者の入院患者様が多いという状況から認知症ケアに力を注いでいます。院外の認知症看護研修を受けた看護師が中心となり、看護部認知症ケア委員会があります。

そして委員会では全看護師・介護職に院内研修を行い認知症対応力の向上に努めています。入院をきっかけにせん妄を発症される患者さんも多く、対応に苦慮することもあります。

患者様の安全のため、やむをえず身体拘束をさせて頂くこともありますが、アセスメントシートを使用しカンファレンスを重ねて、身体拘束の解除に向けた取り組みをしています。

せん妄予防については、2020年度の診療報酬改定にも含まれており、当院ではフローシートやパンフレットを使用してせん妄のリスクや症状の確認と早期の対応・対策を行い、安全で安心できる治療環境の提供をめざしています。



Staff Essay



臨床工学科 阿部 泰三

臨床工学技士って…?

コメディカルとは、医師・歯科医師以外の医療関係者の中で、医師の指示の下で医療業務を行う人の総称です。

私は、世間ではあまり馴染みのない臨床工学技士というコメディカルとして病院で仕事をしています。医療機器の進歩に伴い、医学的、工学的な知識を持つ専門職が必要となったためにつくられた医療技術職です。病院内では、ME (medical-engineer) または、CE (clinical-engineer) と呼ばれ、現在は約 25,000 人の臨床工学技士が全国で活躍しています。

臨床工学技士がどのような仕事をしているのか紹介します。

このご時世、新型コロナウイルス感染症のニュースや記事の中で重症患者の治療に必要な人工呼吸器、ECMO (エクモ) という言葉を耳にしませんか? 日本の国民的芸人である志村けんさんも人工呼吸器と最後の命綱である ECMO を装着して闘病しました。これらの医療機器や透析治療、心臓手術、人工保育器等の生命維持管理装置 (命をつなぐ機械) を臨床工学技士は、医師の指示の下で操作及び保守点検を行うことを仕事としています。

また益々増大する医療機器の安全確保と有効性維持の担い手として、機器のマネジメントや機器取扱いなどのスタッフ教育も行っています。

今日なし得るだけの事に全力を尽くせ。しからは明日は一段の進歩あらん。その確かな一歩の積み重ねでしか、生み出せないエネルギーがある。微力ながらチーム医療を支えています。

ECMO (体外式膜型人工肺) : Extracorporeal membrane oxygenation

▼講演会を開催しました。

3月10日介護老人保健施設はねうまの里が「筋力低下を防いで健康UP!」と題して健康維持に役立てていただくための講演会を開催いたしました。理学療法士による講演、参加の皆さんと一緒にロコモ体操を行いました。今後も市民の皆さんへ貢献できる活動を続けていきたいと思っております。



▼FreeWi-Fi使えます。

患者様へのサービスの一つとして、外来にWi-Fiを整備いたしました。ご利用にあたっては、正面玄関に掲示してある注意事項と免責事項を必ずご確認ください。SSID、パスワードは予告なく変更します。

◆患者さまのご紹介や転院等のご連絡は、地域連携センターで承ります。

けいなん総合病院 地域連携センター

〒944-8501 新潟県妙高市田町2丁目4番7号

Tel:0255-72-3161 (代表) Fax:0255-72-3175 (直通)

e-mail:renkei@keinansogo.jp

